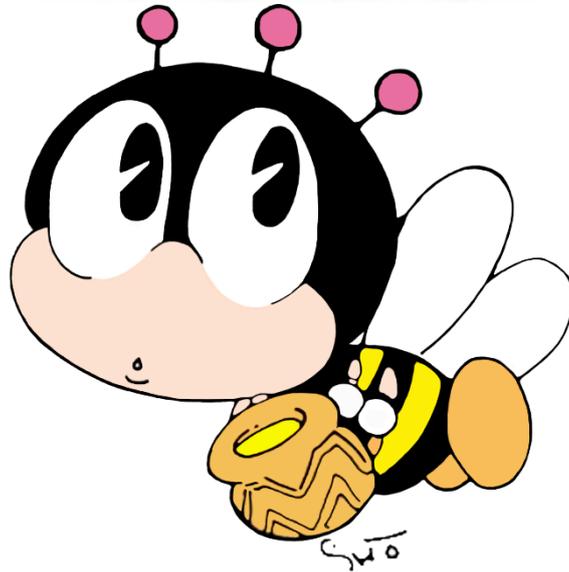


## 生涯学習のマスコット

# マナビィ



### ●「マナビィ」とは？

「マナビィ」は、文部科学省の依頼により石/森章太郎さんがデザインした生涯学習のマスコットです。1988年11月、千葉県で開催された「第1回全国生涯学習フェスティバル」から、マスコット及びシンボルマークとして使用されました。現在でも、国・地方自治体等における生涯学習啓発活動にて幅広くマスコットとして採用され、活躍しています。

### ●「マナビィ」の名前の由来と3本の触角とは？

名前の由来は、生涯学習の[学び]とみつばちの[bee]を合成し、「マナビィ」としました。みつばちの触覚は普通は2本ですが、「学」という字の頭に角が3本あるように、学ぶことが大好きな「マナビィ」には触角が3本あります。そして、老若男女だれもがいつでもどこでも楽しく学び活動するといった生涯学習のイメージを浸透させる役割を果たしています。

### ●「壺」の中身は？

「マナビィ」が手前に持っている「壺」は、一見ハチミツが入っているようにも見えますが、聖書に出てくる[マナ]という植物の実で、イスラエルの民がエジプトを脱出し、荒野を旅していたときに天から授けて、以後この「マナ」だけを食べて生き延びたと言われている食べ物です。「学び」は人々が生きていくのに欠かせないものだというメッセージを、石/森章太郎さんは我々に残したのかもしれませんが。

※参考文献 月刊「マナビィ」(2002年11月号)